

## 二十四節気シンボルマーク

奈良町にぎわいの家は、四季を通じて町家の暮らし、生活の知恵を体験していただく施設。

移ろう季節のイメージを、二十四節気に合わせ、わかりやすくオリジナル図案化してみました。

四季のシンボルマークとしてお楽しみください。

館内には季節に合わせ、シンボルマークのスタンプを設置してまいります。

構成:おの・こまち(奈良町にぎわいの家総合プロデューサー)  
デザイン:金田碧(藍寧舎代表/フルコトデザイナー)

| 季節 | シンボルマーク | 図案の内容 |
|----|---------|-------|
|    | 図案選定の理由 |       |

| 春 | <br>立春   | 梅<br>春を知る目安となる花                         | <br>春分   | 桜<br>七十二候「桜始開:さくらはじめてひらく」より             |
|---|---|---|---|---|
|   | <br>雨水 | 椿のつぼみ<br>修二会を象徴する花としても知られる              | <br>清明 | つばめ<br>七十二候「玄鳥至:つばめいたる」より、ツバメが飛来する季節を示す |
|   | <br>啓蟄 | 地中から起き出してくる虫<br>七十二候「蟄虫啓戸:ちっちゅうとをひらく」より | <br>穀雨 | 葎や早苗<br>七十二候「葎始生:よしはじめてしようず」より          |

| 夏 | <br>立夏   | 筍の皮<br>七十二候「竹笋生:たけのこしようず」より | <br>夏至   | かわせみ<br>夏の季語となる鳥             |
|---|---|-----------------------------|---|------------------------------|
|   | <br>小満 | 麦<br>七十二候「麦秋至:むぎのとさいたる」より   | <br>小暑 | 蓮の花<br>七十二候「蓮始開:はすはじめてひらく」より |
|   | <br>芒種 | 蝸牛<br>6月梅雨の季節の象徴            | <br>大暑 | 波と花火<br>夏の風物詩                |

| 秋 | <br>立秋 | オミナエシ<br>秋の七草の一つ              | <br>秋分 | ススキ<br>秋は月、月には薄が似合うもの         |
|---|---|-------------------------------|---|-------------------------------|
|   | <br>処暑 | 稲<br>七十二候「禾乃登:こくのものすなわちみのる」より | <br>寒露 | 菊<br>七十二候「菊花開:きくのはなひらく」より     |
|   | <br>白露 | 露の雫<br>七十二候「草露白:くさのつゆしろし」より   | <br>霜降 | 流水に紅葉<br>七十二候「楓鳥黄:もみぢつたきばむ」より |

| 冬 | <br>立冬 | 水仙<br>七十二候「金盞香:きんせんかさく」より;金盞は水仙の異名である | <br>冬至 | 柚子<br>冬至には柚子湯                 |
|---|---|---------------------------------------|---|-------------------------------|
|   | <br>小雪 | 鴛鴦:おしどり<br>冬の季語となる鳥                   | <br>小寒 | 雉子:きじ<br>七十二候「雉始雊:きじはじめてなく」より |
|   | <br>大雪 | くるまる猫<br>雪やこんこあられやこんこ、猫はこたつで丸くなる      | <br>大寒 | 霜柱<br>厳しい冬の寒さを示すもの            |

| 節気 | 読み    | 月日     | 意味                                     |
|----|-------|--------|--|
| 立春 | りっしゅん | 2月4日   | 暦の上での春が始まる                             |
| 雨水 | うすい   | 2月19日  | 降る雪が雨となり、これまで積もった雪が溶け始める頃              |
| 啓蟄 | けいちつ  | 3月6日   | 越冬のため地中に巣ごもりしていた虫が戸を開いて地上に姿を現す頃        |
| 春分 | しゅんぶん | 3月21日  | 立春から立夏までのちょうど真ん中。この日を境に昼が長く夜が短くなる。     |
| 清明 | せいめい  | 4月5日   | 草木の芽が出て、何の草木も明らかになる頃。ツバメが飛来し、桜の花爛漫となる。 |
| 穀雨 | こくう   | 4月20日  | 百穀を潤す春の雨が降る季節。種まきの好期となる。               |
| 立夏 | りっか   | 5月6日   | 暦の上での夏が始まる                             |
| 小満 | しょうまん | 5月21日  | 万物が長じて天地に満ち始める頃を指す。                    |
| 芒種 | ぼうしゅ  | 6月6日   | 麦の実る時期。麦秋。芒とは麦のこと。                     |
| 夏至 | げし    | 6月21日  | 一年で最も昼の時間が長い時期                         |
| 小暑 | しょうしょ | 7月7日   | 暑さ本番となり、蓮が初めて開く頃                       |
| 大暑 | たいしょ  | 7月23日  | 暑さの最も厳しい頃。夏の土用の頃。                      |
| 立秋 | りっしゅう | 8月8日   | 暦の上では秋の始まり。残暑厳しき折。                     |
| 処暑 | しよしょ  | 8月23日  | 暑さがようやく止まる頃。                           |
| 白露 | はくろ   | 9月8日   | 日中はまだまだ暑い日が続くが、朝夕は涼しくなり草の葉に朝露が宿る頃。     |
| 秋分 | しゅうぶん | 9月23日  | 日が短くなり、本格的な秋の訪れを知る。                    |
| 寒露 | かんろ   | 10月8日  | 草木に宿った露が寒気によって凍り始める頃の意。朝晩めっきり冷え込む頃     |
| 霜降 | そうこう  | 10月23日 | 秋の季節の最後。紅葉の便りとともに霜が降る季節が近づく。           |
| 立冬 | りっとう  | 11月7日  | 冬になる日                                  |
| 小雪 | しょうせつ | 11月23日 | 晩秋から初冬へと季節は移る。                         |
| 大雪 | たいせつ  | 12月7日  | 日没時間の一番早い頃。関西では一年の神事・農事の納めの日とする。       |
| 冬至 | とうじ   | 12月22日 | 一年で最も夜の時間の長い時期。二十四節気の基点となる日。           |
| 小寒 | しょうかん | 1月5日   | 寒の入り。寒さの厳しい季節の始まり。                     |
| 大寒 | だいかん  | 1月20日  | 一年で最も寒さの厳しい時期。                         |

## 二十四節気七十二候とは？

古代より、中国を始めとして日本や朝鮮半島など東アジアの諸国で用いられてきた太陰太陽暦(いわゆる旧暦)は、月の満ち欠けを用いて日を数えることを基本としている。十二回の月の満ち欠けを持って、一年とするが、その日数は354日ほどとなり、実際の一年(太陽の運行による一年)に10日ほど不足する。その不足は3年でほぼ一月分となることから、閏月をもうけることで日数的には解消させることができる。しかしその結果暦上の日と季節が食い違うことになるため、気候を示す指標を置くことで、季節のずれを解消させようとした。その指標が二十四節気である。

二十四節気は冬至を基点とし、太陽年を十二等分し、さらにその中間に節気を設けることで二十四等分とし、それぞれに季節にふさわしい名称をつけた。二至二分(冬至・夏至・春分・秋分)とその中間に設けた四立(立春・立夏・立秋・立冬)の八節を柱として組み立てられた二十四節気は生活を送る上での大切な目安となった。

旧暦の時代には、暦上の日付と二十四節気の指標によって農業や日常の生活が営まれ、実際の季節を知らせるものとして重視されていた。

このような二十四節気であるが、15日単位となるため少々おおざっぱとなることもある。このため、より詳しい気候の変化を知らせる目的で、さらに三等分し、5日ずつとした七十二候が定められた。